

環境学委員会環境科学・環境工学分科会
環境工学連合小委員会（第26期・第2回）
議事要旨（案）

日 時 令和6年9月2日（月）13:00～14:10

会 場 オンライン会議（Zoom）

出席者（敬称略）：下田（日本学術会議）、森口（日本学術会議）、浅見（委員長、日本学術会議）、中井（幹事、化学工学会）、一ノ瀬（環境科学会）、小瀬（幹事、空気調和・衛生工学会）、小澤（地盤工学会）、藤井（土木学会）、加用（日本LCA学会）、奥田（日本化学会）、松山（幹事、日本機械学会）、秋元（副委員長、日本建築学会）、醍醐（日本鉄鋼協会）、小林（日本土壌肥料学会）、梅村（日本分析化学会）、佐藤（日本水環境学会）、石森（廃棄物資源循環学会）

オブザーバー：湯浅（化学工学会事務局）、半田・内堀（空気調和・衛生工学会事務局）、松崎・矢野（資源・素材学会事務局）、河瀬（日本化学会事務局）、橋口・森本（日本機械学会事務局）

配布資料（メールにて事前配布済み）

資料1 環境工学連合小委員会（第26期・第1回）議事要旨

資料2 第36回環境工学連合講演会の開催報告

資料3 第37回環境工学連合講演会の企画案

資料4 小委員会活動の今後の予定と検討課題

資料5 環境工学連合小委員会委員名簿

議 事

- 議事に先立ち、23名の委員のうち17名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

（1）前回議事要旨の確認

- 資料1に基づき、第26期・第1回議事要旨を確認した。

（2）第36回環境工学連合講演会の開催報告

- 資料2に基づき、化学工学会の中井委員より報告があった。主な点は以下の通り。
 - アンケート実施結果によると、概ね好評であったが、終了後の懇親会開催などネットワーク構築の機会があるとよいという意見が多数あった。
 - 松方先生が基調講演で熱心に語っていただいた。今後、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブの主要3政策を扱う課題別分科会に特任連携会員として参画していただくことになり、次につながった。
 - 事務局を務めた化学工学会事務局の湯浅オブザーバーから、聴講者か

らCPDの問い合わせがあったとの報告があった。これまでも少数であるが建築・土木系の参加者から要望があったこと、以前のオンライン受講は、Zoomで接続時間を確認して対応したこと森口委員から説明があった。今回は事後対応を行ったが、プログラムの段階でCPDとして認否の明記があることが望ましいことなどの意見交換があった。上記のことをふまえて、次回に向けて幹事学会で対応を検討していただくことを確認した。

(3) 第37回環境工学連合講演会の企画概要

- 資料3に基づき日本機械学会の松山委員から説明があった。主な点は以下の通り。
 - テーマを「先進サステナブル社会における環境工学の役割」として実施する。新しい社会の構築に向けた取り組みに関する環境工学の研究について各学協会から話題提供していただきたい。
 - 日程は、第1候補を5月27日（火）、第2候補を5月28日（水）として開催する。参加学協会でご都合があればご連絡いただきたい。
 - プログラムは第36回に倣って10:00開会、20×6題、昼食時間65分、13:30基調講演、20×9題（前回は8題）、17:30閉会とする。
 - 前回発表のなかった学会もあるので、講演題数によって時間を調整する。18:00までに撤収するためには開会を若干早めることもできるが、オンライン機器のセッティングを当日行うためにはある程度の時間が必要である。事務局を務めた化学工学会事務局の湯浅オブザーバーから、前日の準備はしなかったが、5月上旬に事務局と学生アルバイトが集まって接続、リハーサルを行っていた。学生3名のアルバイトが慣れていて、当日はスムーズに進められたとの報告があった。
 - 招待講演は、例年通りテーマをふまえた講演者を各学会より1名推薦いただきたい。主催学会から後日依頼を送る。ジェンダーバランスに留意いただきたい（全体で少なくとも複数名いるとよい）。
 - 運営への協力依頼（開会挨拶、閉会挨拶：上位委員会委員、閉会前総括：小委員会委員長、特別講演座長：小委員会委員長、招待講演セッション座長：小委員会委員）があった。
 - 講演集は無料配布とする。

(4) 小委員会活動および検討課題について

- 資料4に基づき、森口委員から説明があった。主な点は以下の通り。
 - 小委員会委員構成と任期について：委員の退任を小委員会で承認したうえで、学術会議幹事会での承認手続きを経る手順となる。
 - 今後の講演会の統一テーマの検討と第37回以降の環境工学連合講演会の開催予定：2025年5月の小委員会でのテーマ決定に間に合うようにテーマ案の検討をお願いしたい。
 - 小委員会の今後の検討課題：過去の講演会の講演者、講演テーマを文字検索可能な形で掲載するなど、開催情報を閲覧できる環境工学連合講演会の常設ページを設けることになっている。浅見委員長と相談の上作業を進める。
 - 環境工学連合講演会開催以外を含めた小委員会の活動：環境工学連合

講演会以外の活動についても委員長中心に検討いただきたい。第25期では「カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議」「日本学術会議と国内の学協会連合等との連携に関する調査」に参加した。本委員会の設置母体の変更に伴う「環境工学」分野以外の学協会、学術分野との連携も課題となる。第26期では「カーボンニュートラル都市分科会」「サーキュラーエコノミーのための資源・材料の循環利用検討分科会」の設置に参画しており、これらの分科会活動との情報共有について留意したい。

- ポストコロナの講演会開催形態等：ハイブリッド開催が定着しているが、対面で実施するなら懇親会も開催が必要であるという意見もあったことから検討が必要である。冊子体の講演論文集は著作権の課題もあり当日の配付資料としての扱いとしていて、正式な出版物とすることには課題がある。経費の管理方法については、8幹事学会、共催学協会とも追って協議したい（日本機械学会、空気調和・衛生工学会の引き継ぎの段階あたりで調整が必要である）。
- 環境科学会の一ノ瀬委員からAITの「ICUE 2024」
(<https://icue2024.ait.ac.th/>) の開催について情報提供があった。アジアで開催される環境分野の会合であり、内容が近い。ホームページをご覧ください。参加や今後の連携等を検討いただきたい。

(5) その他

- 出席した各委員に発言を求めた。講演者の選出に対するジェンダー配慮に対する発言などがあった。
- 委員の変更について
環境資源工学会の廣吉委員が退任し、秋田大学柴山委員を新任として申請することを承認した。

以上